

ロシアナのロシアな話—モスクワ到着編— ／いちのへ友里



イラスト 岩井正幸

シエレメチエボ2国際空港から都心へと延びる道、空を刺すような白樺(しらかば)の街路樹、キリル文字が飛び跳ねる看板、ソ連製のヴォルガで出迎えてくれた運転手…。到着したばかりのモスクワは、すべてが大きく見えました。

見えるものばかりではありません。

レディーファーストが基本のエレベーターでは、「お先にどうぞ」とビジネスマンが大きな手で示してくれるのですが、動けません！

どうやら、大きい足で踏んでいる私のつま先には気づいていない様子。

気前良くカップぎりぎりまで紅茶を注いでくれるカフェでは、「どれにしますか」とウエートレスが大きなケーキを勧めてくれるのですが、選べません！

ともすると、何味を注文したのか忘れてしまうほどの甘さ加減。

カーチェイスさながらに進むタクシーでは、「どうか安全運転で」と私が大きな声でお願いするのですが、できません！

なんと、ゆっくり走ると逆に追突されてしまう危険がある交通事情。

「40キロは距離じゃない、氷点下40度は寒さじゃない、40度は酒じゃない」と言われるロシアでは、形態も大きければ秩序も大きく、身体も大きければ感覚も大きいようなのです。

髪の色、目の色、肌の色も異なるたくさんの人種が、それぞれの言葉で、それぞれの宗教を持ち、それぞれの目的を持って集まっている、ここモスクワでは、あまりにも違っている人々が、まとまりを持って生活していくために、分かりやすさが好まれるのかもしれませんが。そして、なるべく誰にでも分かりやすくしようとした結果、秩序や感覚が大きくなってしまったのかもしれませんが。

さて私も、この大きなロシアで、女子アナならぬロシアナとして、大きく成長出来るでしょうか…。